

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

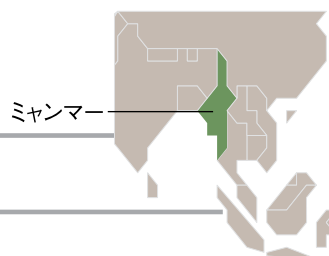
2008年度 プロジェクト・サポーター・プログラム活動報告

募金件数:4,971件

総募金額:1,241万2,000円

対象期間:2007年10月1日～2008年9月30日

皆さまのご協力により、ミャンマー、ウズベキスタン、アゼルバイジャンなどにおいて多くの支援活動を行うことができました。感謝とともに、ここにご報告させていただきます。



ミャンマーにおける保健衛生改善事業

支援地の状況

支援地があるコーカン地区コンチャン郡区は起伏の激しい、険しい地形に囲まれているうえ、道路などのインフラ整備が未発達のため、地理的に孤立した地域です。長い間、地域では高地に適したケシ栽培が人々の唯一の収入源でしたが、2003年にケシ栽培が禁止されたことにより、人々は大きな収入源を失いました。その後稲作栽培などに切り替えたものの、耕地として適さない地形や水不足などから、十分な収穫を得ることが困難です。地域では異なる文化、インフラ未整備、限られた保健医療サービスなど様々な状況が複雑に絡み合い、貧困状態が続いています。

特に子どもたちの状況は深刻です。正しい衛生知識の欠如、不適切な生活様式などが原因で、多くの子どもたちが栄養不良や呼吸器の感染症、マラリアなどに苦しんでいる状態でした。

支援活動の内容

このような状況を改善するため、ワールド・ビジョンでは2006年より、現地での活動を行ってきました。

① 住民への啓発活動

地域の人々が健康に関する意識を高め、正しい知識を身につけることができるように、今年度はイベントを

通した大規模な啓発活動を、計3回開催しました。

9月の満月祭に行われた最も大規模なイベントでは、保健衛生の基礎知識や下痢、マラリア、結核の予防・対処方法についてのパンフレットを配布し、クイズを通して楽しく知識を学びました。その他2回のイベントでも、健康に関するクイズ大会や講演会、歯ブラシや歯磨き粉、石鹸の配布などを行いました。のべ1,600人以上の人々が参加し、病気や予防についての理解を深めました。

② 保健サービスと衛生環境の改善

2村に「栄養改善センター」を設置し、5歳未満の全ての子どもたちの健康診断を行いました。その結果、栄



支援地の子どもたち



蚊帳の使用方法について、説明会を開催しました

養状態の悪い子どもには栄養価の高い食事を配給しただけでなく、母親が栄養価の高い食事を作れるよう実演指導を行い、指導した内容が実践されているか、家庭訪問によって確認しながら、定期的に子どもたちの健康診断を行っていきました。

その成果として2008年の初めには、うち85%の子どもの栄養状態が基準値を超えるまでに改善され、残りの15%の子どもも基準値に限りなく近づいたことが報告されました。

また衛生環境の改善のために、3村の人々と小学校に対して、トイレの資材として便器100台を配布しました。小学校ではトイレの建設も支援し、清潔なトイレの使い方についての研修も行いました。さらに、2村の小学校

に20台の浄水器を設置し、子どもたちが安全な水を手に入れられるように支援したほか、デング熱やマラリアの原因となる蚊への対策として、6村の200家庭に蚊帳を支給するなどの活動を行いました。

③地域のリーダー育成

活動を地域に根付かせるため、地域の人々16人(男性11人、女性5人)がボランティアとして参加し、スタッフとともに中心となって活動を進めました。これらのメンバーに対しては活動に先立ち、保健衛生や栄養、結核、マラリア、HIV/エイズの予防とケアに関する研修を行いました。



ボランティア・メンバーへの研修のようす

担当:池内スタッフから

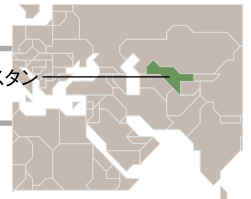
支援地は人々が中国語を話すなど、ミャンマーの中でも非常に特異な文化を持つ地域です。さらに支援地までの道路が未整備であることなど、スタッフが日々の活動を行うなかでも、非常な困難を伴う地域でした。しかしワールド・ビジョン中国の協力や、スタッフの地道な努力のおかげで、2年目である今年度は子どもたちの栄養状態の改善や、地域の人々への啓発活動など、目覚ましい成果をあげることができました。

この活動は今後、近隣地域で活動を行っているワールド・ビジョン台湾の、チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラムに統合される形で、継続していく予定です。



ウズベキスタンにおける障がい児支援事業

ウズベキスタン



支援地の状況

ウズベキスタンは旧ソ連からの独立後、民主主義国家へと変化するなかで経済的・政治的に不安定な状態が続き、貧しい人々の生活が改善されていません。

なかでも障がい児をもつ家族は、治療やケアに費用がかかるうえに、障がいのため教育も受けられず仕事に就けないことから、世帯全体が貧困に陥ってしまうケース

が少なくありません。障がい者年金や手当を合わせても、平均収入の7~8割程度にしかならず、生活や治療にかかる費用をまかなうことができません。さらに障がい者に対する差別・偏見が根強く残っているため、障がい児たちの多くは例え軽度の障がいであっても、ほとんど外に出られない自宅での生活を強いられるか、劣悪な環

境の養護施設（国立）に収容され、社会から隔絶された環境で暮らしています。

支援活動の内容

障がい児たちがそれぞれの可能性を伸ばしつつ、家族とともに地域社会に積極的に参加し、生きがいを持って暮らすことができるように、ワールド・ビジョンでは2006年から支援活動を続けています。

今年度も引き続き、タシケント市にある国立障がい児施設「慈しみの家」に暮らす子どもたちに焦点を当て、様々な活動を行いました。

①成長計画の作成

「障がいを持つ」と一言でいっても、その状況は人によって大きく異なります。障がい児たちがその能力を最大限に発揮し、将来的に自立して社会参加できるようにするためには、障がいの程度や本人の意志、家庭環境といった、それぞれの状況を踏まえたきめ細かいアプローチが必要です。そのためこの支援活動では、施設にいる障がい児たち一人ひとりのニーズに合った作業療法と成長計画を作成し、それにそったケアを行っています。支援のなかで、施設の職員に対してこのような作業療法、成長計画を作成するための研修を行ったことから、このような「テーラーメイド」の計画を持っている子どもの数は、昨年の20名から157名に増えました。

②統合教育・職業訓練の提供

障がい児が家庭に戻り、社会の一員として暮らしていくためには、自立できる手段を得ることが重要です。

今年度は22名の障がい児たちが職業訓練を受講しました。また11名の障がい児たちに対して、普通高校の教師が施設で授業を行ってきました。現在では普通高校に通学しており、無事に高校卒業資格がとれる見込み



職業訓練（縫製クラス）に通う子どもたち

みです。技術を身につけ、特殊学校ではなく普通高校での教育を受けられることは、今後彼らが社会へ参加していくうえで、大きな力となります。

③家族・地域社会への啓発活動

障がい児を迎える家族や地域社会が障がいへの差別・偏見をなくし、障がい児たちが大きな可能性を秘めた、かけがえのない存在であることを理解できなければ、彼らが安心して家庭や地域に戻ることはできません。

今年度は家族・地域社会への啓発活動として、障がい児とその家族による演劇発表会を開催しました。ウズベキスタンの若手俳優や女優も参加し、当日は地域の人々260名が来場しました。この発表会は、障がい児たちにとって地域社会へ参加することの楽しさと自信を与え、家族や地域の人々にとっても、障がい児たちの持つ可能性を知り、彼らに対する意識を変化させる機会となりました。



▲劇のようす ▼ 劇を観賞する来場者



このように懸命な活動を続けていますが、施設内での障がい児への虐待や無視（ニグレクト）など、依然として多くの問題が残っています。ワールド・ビジョンでは「子どもを守るための行動規定案」を作成し、これに基づいて子どもたちを守っていくために、関係者や家族、教育省、警察、ウズベキスタン政府など様々な機関との話し合いを続けています。

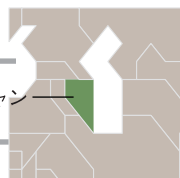
担当:木内スタッフから

障がい児も他の子どもと同じように大切にされ、生きる権利を持っています。しかし現状では多くの場合、その権利が守られていません。特に途上国では貧困という足かせが加わり、障がい児の存在は重い負担として家族にのしかかっています。障がい児たちが家族の元に戻り、それぞれの可能性を伸ばし、社会の一員となるために地域がサポートしていく社会を築いていくためには、まだ多くのハードルがあります。しかしその実現に向かって一歩ずつ進んで行けるよう、支援を続けていきます。この活動に参加してくれた一人ひとりの笑顔が、私たちにとって何よりの励みです。



アゼルバイジャンにおける障がい児教育支援事業

アゼルバイジャン



支援地の状況

アゼルバイジャンは1991年の独立後も、経済の立ち遅れから雇用不安が続いています。隣国アルメニアとの衝突から治安状況も悪化し、保健医療や教育といった基本的社会サービスに大きな支障が出ています。

このようななか、障がい児たちの教育問題は特に深刻です。アゼルバイジャンではこれまで、多くの障がい児たちが自宅に閉じこもり、教育を受ける機会を与えられませんでした。幸いにも機会を得た場合でも、ほとんどの障がい児たちが寄宿施設の併設された特殊学校で学んでいます。また軽度の障がいであっても普通学校に行くことは難しく、社会との接点を持たないまま、閉鎖された環境で学んでいます。

支援活動の内容

障がい児たちが社会の一員となり、生きがいを感じながら生活できるようになるためには、幼少期から社会に参加する機会を与えられることが、障がい児たちにとっても、受け入れる社会にとっても重要です。

ワールド・ビジョンでは2004年から、障がい児たちが普通教育を受ける子どもたちと分け隔てなく育てられ、ともに学んでいく「統合教育」を支援しています。具体的には、地域の人々への啓発活動だけでなく、障がい児たちの多様なニーズに応じた教育ができるよう、学校教師や関係者へのトレーニングを実施しています。

今年度は8校に合計9つの統合クラスを設置し、新たに52人の障がい児たちが年齢に応じた普通学校に入学しました。また25人の教師が必要な研修を修了し、統合クラスで教えています。4年間の活動を通して、統合教育に参加した子どもたちのストーリーを集めた本も出版され、事業の成果が目に見える形で、教育省や学校、地域の人々の手に届いています。



統合クラスの様子

●お問い合わせは… 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話:03-3367-7621 (支援者サービス課直通) FAX:03-3367-7652

e-mail: dservice@worldvision.or.jp

www.worldvision.or.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しています。ホームページをぜひご覧ください。